

ハノーバー・メッセ2009の重要テーマは「エネルギー及びエネルギー効率化」

日本の皆様に、ドイツ本社を代表してご挨拶申し上げます。



「ハノーバー・メッセ」上級副社長
ヴォルフガング・ペツヒ

すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、「ハノーバー・メッセ」とは世界で最も知られているテクノロジー見本市であり、世界最大の産業技術見本市であります。その特色は、それぞれが各分野の国際的な専門見本市である13の見本市を同時期、同一会場で開催することです。さらに、分野をクロスオーバーする生産技術ソリューションや、新しいバリューチェーン(価値連鎖)の可能性、多数の革新的技術が毎回展示されます。

出展社数は、世界62カ国から6,000社以上に上り、さらに20万人に及ぶ国内外からの専門家ビジターや政財界の要人が、4月にはハノーバーを訪れて、将来を担う生産技術ソリューションに関する情報を収集したり、意見交換を行います。会期中に併催される1,000以上の特別展やフォーラムもまた、「ハノーバー・メッセ」の特色となっており、産業技術に関する世界最大規模の学会の役割を果たしているといえるでしょう。

毎年の展示では、世界の産業界が向き合っている最新の課題を重点テーマとして取り上げます。今年の重点テーマは「エネルギー及びエネルギー効率化」で、全会場でこのテーマに関連する展示が繰り広げられます。また、特別展においても、エネルギー消費の産業用プロセスを最適化するための製品や方法を、分野をクロスオーバーした出展各社により紹介いたします。

長年にわたりトレンドの先駆者として重要な役割を果たしてきた「ハノーバー・メッセ」として、今回も数多くの革新的技術を紹介

いたします。会場では、人目を引く大規模テクノロジーにとどまらず、一目見立たないが可能性に富んだアプリケーションや技術応用の展示もご期待頂けます。

世界で最重要な産業見本市としての「ハノーバー・メッセ」の長所は、出展社数や世界最大の展示規模だけでなく、各業界を代表する出展社や専門ビジターの方々が一堂に会し、質の高いデジジョンメーカーやユーザーの出会いの場が作られていることにもあります。「ハノーバー・メッセ」では、新しいアイデアや事業の新たな可能性を見出すことができ、重要なネットワークを構築する機会が提供されています。新たなコンタクトを結び、新市場を開拓し、国際競争での位置づけをするのに、「ハノーバー・メッセ」ほど適した場は他にないでしょう。それに、グローバルプレイヤーと言われる大企業にとつのみならず、中小企業にとつても同様な心配りがなされているのです。

昨年度の「ハノーバー・メッセ」では、光栄にも日本を「パートナーカントリー」としてお迎えし、日本からの出展社やビジターの方々から、メッセ参加の成果に高い評価を頂きました。ドイツサイドもまた、日本企業の技術とものづくりの精神に感銘を受けました。会期中にできたネットワークは更に広がりを見せ、新たなビジネスチャンスを生み出しております。

今年の4月に「ハノーバー・メッセ」でお目にかかれるのを、心より楽しみにしております。

ハノーバー・メッセ2009開催概要

開催期間

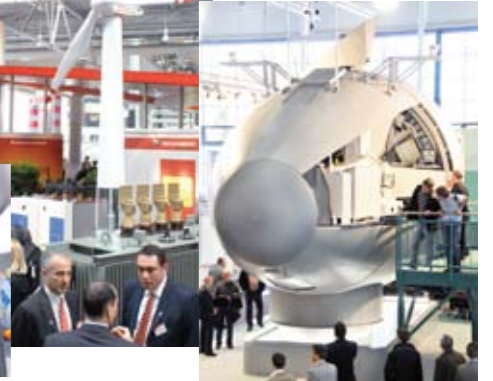
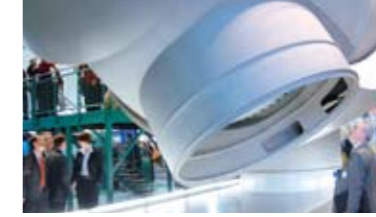
2009年4月20日(月)～24日(金)の5日間

会場

ドイツ・ハノーバー国際見本市会場

展示プログラム

- INTERKAMA+ (国際計測・制御・自動化専門見本市)
- ファクトリーオートメーション
- インダストリアル・ビルディング・オートメーション
- デジタルファクトリー
- モーション・ドライブ・自動化技術
- Com Vac (圧縮空気および真空技術)
- 産業用部品
- エネルギー
- 風力発電 NEW!
- パワープラントテクノロジー
- パイプラインテクノロジー
- 表面処理技術
- マイクロテクノロジー
- 研究開発及びテクノロジー



ハノーバー・メッセ2008参加者の声

ブランディング意識の高さに刺激を受ける

薄物から中板までの精密板金と製缶板金の複合加工を得意とするIMC株式会社。昨年のハノーバー・メッセに参加された同社の並木社長にお話を伺った。

小さな会社が世界に向けてPRしていた。出展内容は国によって格差があり、ヨーロッパの先進国は自社商品を展示していたが、そのサブコンであるトルコや中国の部品メーカーは供給部品を展示していた。

ハノーバー・メッセに参加した目的

生産財の購入を検討しており、情報収集のために3日間かけて全展示を見てきた。取引したいと思った会社も見つかり、日本に戻った後もコンタクトがあった。年によって出展企業が違うため2年連続で参加したいと思わせるほど、規模が大きい。

ハノーバー・メッセで感じたこと

自社と同じようなサブコントラクターが、しっかりとしたブースで出展しているのに刺激を受けた。サブコンと謂えどもブランディング意識が高く、CI(コーポレートアイデンティティ)がしっかりしている。従業員4名ほどの

ヨーロッパと日本の製造技術の印象

日本の技術はすごいと言われているが、そうとも言い切れない。個人的には、日本はヨーロッパに学ぶべき部分もたくさんあると感じた。なぜ西ヨーロッパ社会はより合理的な考え方をしているのか理解できた。それは現地の空気にふれると気づけるかもしれ

IMC株式会社
並木俊一郎社長



ない。生物多様性が日本より少ないためなのか、価値を過剰に付加しようとは考えない風土を感じる。そんな合理性を我々はまだ取り入れることができるのではないかと思った。

IMC株式会社

所在地：茨城県古河市東山田2635-1
TEL：0280-78-1710/FAX：0280-78-2373
事業内容：板金金属加工・製缶金属加工を中心とする金属部品供給事業、金属製品の製造販売事業



ステンレスケースの砂時計